

A: 1. 段ボール箱は一人で持てる重さ・大きさにする。重いものは小さな箱、軽いものは大きな箱に。中のものが動かないように新聞紙や緩衝材を隙間に入れる。段ボール箱を補強するにはガムテープを底に十字に貼ると良いです。段ボール表面に「1. 衣類」等、通し番号と中身を記入すると作業もスムーズです。

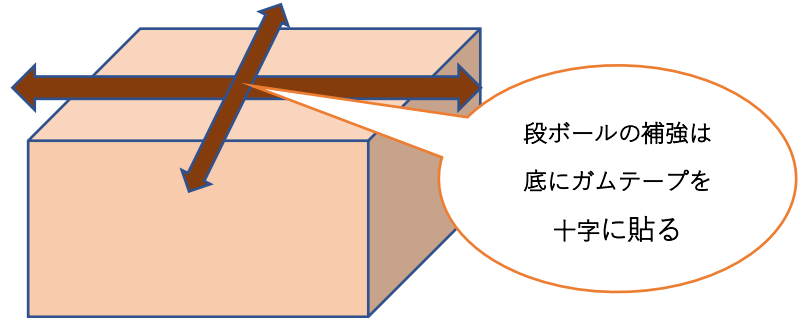
2. 段ボール箱は、何を入れたかをマジックで記入する。目立つように「ワレモノ注意」「下積み厳禁」「逆さ厳禁」も表示する。

3. 段ボール以外のものの中身の見えない物も何かわかるように表示する。

4. ふとんは、スーパー等で売っている「ふとん圧縮袋」に入れる。ふとんの間にワレモノは絶対に入れないで下さい。

5. 本はひもで束ねるより、段ボールに入れる。

6. ワレモノの箱は段ボールの底に緩衝材を等クッション素材を敷く。ワレモノは一つひとつを紙や緩衝材で包み、重い物が下、軽い物を上に重ねて入れる。



皿は、段ボール箱には縦にして入れる。

カップは取手を緩衝材で保護をして、全体をさらに緩衝材で包む。

グラスは足の部分を口の部分と同じ太さとなるよう緩衝材で保護してから全体をさらに緩衝材で包む。

瓶は、蓋をキッチリと閉めてビニール袋に入れて厚紙で銅を包んだ後緩衝材で包む。

鍋やフライパンは、緩衝材を挟み大きいものを下にして重ねる。ガラスの蓋は緩衝材で包む。

包丁は、厚紙やタオルで包み、ゴムやガムテープで動かないようにする。

段ボールの中の間隙を全て緩衝材や新聞紙を詰めて、ワレモノが動かないように固定する。

段ボールの表に、「ワレモノ注意」と目立つよう記入をする。

7. 冷蔵庫は、前日までに電源を切り霜取りと水抜き（製氷機の氷や水を捨てる。）、そして中身や受け皿を空にする。電気コードは、まとめて本体に布テープで固定をする。横倒しにはしない。

8. 洗濯機は、前日までに傾けて、水抜きをする。ホースは留め具にかけて布テープで固定。洗濯機の中の水分も取り、その中にアース、電気コードを入れる。

9. テレビやパソコン、オーディオ、オープンレンジは、購入時のケースがない場合は毛布、バスタオル、緩衝材で厳重に包む。

10. DVD、CD、レコード、ビデオテープは段ボールに隙間なく入れて動かないようにする。レコードは小さめの段ボールに立てて入れて回りを緩衝材で包む。ビデオテープは緩衝材で一つひとつ包み、段ボールに入れる。

11. タンスや机は中身を全て出す。引き出しはガムテープで留めると塗装が剥がれます。留める場合はメンディングテープがお勧めです。

12. 石油ストーブ、ファンヒーターのオイルは空にする。

13. 空の段ボールを1~2箱用意する。（引越し時の忘れ物入れや直前に気づいた物を入れるため。また、ごみ入れ用として）

14. 搬入先（新居）の荷物や家具の配置図（レイアウト）を記入して引越し当日に、ドライバーに渡せるよう準備をする。